

「安倍談話」に対し 日本共産党が見解

「安倍談話」は、「侵略」「植民地支配」「反省」「お詫び」などの文言がちりばめられていますが、「村山談話」に示された歴史認識はまったく語られず、「反省」と「お詫び」も過去の歴代政権が表明したという事実に言及しただけで、首相自らの言葉としては語らないという欺瞞に満ちたものです。

- ①「村山談話」「河野談話」 談話の核心的内容—「植民地支配と侵略」への「痛切な反省と心からのお詫び」—を継承し、談話の精神にふさわしい行動をとる。
- ②日本軍「慰安婦」問題 被害者への謝罪と賠償など、人間としての尊厳が回復される解決に踏み出す。
- ③靖国参拝 少なくとも首相や閣僚による参拝は行わないことを政治のルールとする。
- ④ヘイトスピーチ 民族差別をとおすヘイトスピーチを根絶する。
- ⑤教科書 侵略戦争と植民地支配への反省を、学校教科書に誠実・真剣に反映させる努力をつくす。

憲法9条生かした平和の外交戦略を 「北東アジア平和協力構想」を提唱 **日本共産党**

さまざまな紛争や緊張の火種がある北東アジア。しかし、何でも「軍事」で構えるなら「軍事対軍事」の悪循環に陥ってしまいます。日本共産党は、紛争を話し合いで解決する平和の枠組み—「北東アジア平和協力構想」を提唱し、その実現のために内外で活動しています。

- 日本共産党** 「北東アジア平和協力構想」(概略)
- 北東アジア規模の「友好協力条約」で、紛争を話し合いで解決するルールをつくる。
 - 北朝鮮問題を「6カ国協議」で解決し、地域の平和と安定の枠組みに発展させる。
 - 領土問題の外交的解決をめざし、紛争をエスカレートさせない「行動規範」をむすぶ。
 - 日本が過去におこなった侵略戦争と植民地支配の反省は、不可欠の前提となる。

「戦争する国」許さない

折り返し

ストップ! 戦争法案

戦後70年の夏を迎えました。日本の侵略戦争は200万人を超えるアジアの人びと、300万人を超える日本国民の生命を奪いました。その悲しみと反省のうえに、「二度と戦争をしない」と誓ったのが日本国憲法です。

憲法の重みかみしめよう

戦後、一人の外国人も殺さず、一人の戦死者も出さなかったのは、安保条約や「抑止力」のおかげではありません。憲法9条が存在し、平和を希求する国民の世論と運動があったからです。

ところが安倍政権は、あの戦争への反省もなく、9条を全面的に破壊する戦争法案を今国会で強行しようとしています。再び日本を「海外で戦争する国」にする戦争法案を廃案にするため、今こそ声をあげましょう。

